

故郷なる友に

あひ見んと思ふ心のせつなさに

今霄も君をゆめに見しかな

春の歌三首

敏

子

曙

つく／＼と思ひ暮してはれやらぬ

心にてたる春のわけほの

霞

限りなくかすみにけりな懐しき

都のそらやいつこなるらむ

鳥

花になく小鳥の聲も匂ふなり

都の春もかくやのとけき

蝶

東くめ子

春の御神の

みつかひと

世の歌人に

胡蝶の身こそ

夜はすみれの

朝はひばりの

春のこてふの

白き蝶

散りかふ花と

ともにしまへば

花に似たりと

黄なる蝶

枝もたわゝに

山吹のへに

いづれを花と

黒き蝶

げに花よりも

めでらるゝ

樂しけれ

床にねて

歌をさく

おもしろや

うちみだれ

わかすがた

人はいふ

咲きをゝる

やすらへは

人はとふ

うるはしき

わがよそはひは  
綾あやもにしきも  
人の世ひとよの  
およばしな

つばなは軽かろき  
くろき羽袖はそでに  
さまゝの  
うすぎぬの

わやかりなせる  
わかころも

われこそ蝶てふの  
王きうならめ

しろたへの衣きぬ  
清きよけれと

山吹やまぶきがさね  
色いろはよくとも

言はず語らず春の日の

野口雨情

言はず語らず春の日の

潮うしほはなやぐ朝あさぼらけ

言はず語らず春の日の

陰かげにこぎ行く漁舟いさなふね

言はず語らず春の日の

永ながき光線ひかりせんの海うみの上うへ

言はず語らず春の日の

静しずかに沈ながむ雲くものいろ

言はず語らず海士うまびとの  
波路なみちをかへる夕間暮ゆふまぐれ  
言はず語らず海士の子こが  
磯いその子松こまつの陰かげに立ち  
言はず語らず沖行雲おきゆくもの  
雲眺そらながめ待まちつは誰たれ子こぞ

花の袂

かすむ春野はるのに  
もえいづる

すみれ蒲公英たんぽぽ  
つくづくし

はなのたもとに  
あまるまで

摘つむうれしさを  
門かどに待まちつ

妹いもうととはゝとに  
わかたばや

あねと弟あとうに  
みせばやな

